令和元年１１月１５日
（２０１９年）

保護者の皆様

吹田市立千里第二小学校
校 長　　佐野　賢治

平成３１年度（令和元年度）　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、６年生を対象として「平成３１年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」を実施し、９月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた本校の課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

今回の調査を客観的に分析することにより、学校として課題に応じた学力向上につながる指導の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習、家庭生活の参考にしていただきますよう、お願いいたします。

１．教科に関する調査結果と分析

国　語

≪概要≫

・正答率は全国値を上回っている。
・正答数分布は、１１問(１４問中)を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、９問以上の正解者が８割以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

＜話すこと・聞くこと＞

・正答率は全国値を上回っている。
・目的に応じて、質問を工夫することが十分できている。
・「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること」ができている。

・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる記述式問題では、正答率は全国とほぼ同じであるものの、無解答率も全国値とほぼ同じだけあり、出された条件を満たさずに不正解となった解答も目立った。指定された文字数は満たしているが、インタビューの言葉から引用してまとめなければならないところを、引用せずに自分の言葉で記述してしまったものがあった。

＜書くこと＞
・正答率は全国値を上回っている。
・図やグラフなどを用いる目的や、相手にわかりやすく伝える記述の仕方について十分に捉えられている。
・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめる記述式問題では、正答率は全国とほぼ同じであり、無解答率もさほど高くはなかった。しかし、出された条件を満たさずに不正解となった解答も目立った。指定された文字数は満たしているのだが、資料の複数箇所から引用してまとめなければならないところを１箇所からしか引用していないなど、条件に沿っていないために、不正解となったものが多い。

＜読むこと＞
・正答率は全国値を上回っている。
・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことがよくできている。
・読んだことをまとめる記述式問題では、正答率は全国値を上回っているものの、無解答の児童が一定数いる。

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞
・正答率は全国値を上回っている。
・漢字を文の中で正しく使うことはおおむねできている。ただし、「調査のたいしょう」を漢字で書く問題は、正答率がかなり低かった。正しくは「対象」であるが、１文字目の「対」は書いているが、２文字目を「照」等の誤用が目立った。
・文と文とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題では、全国値を上回っているものの正答率が低く、課題である。

★国語科における成果と今後の指導改善点について

【話すこと・聞くこと】
・話すこと・聞くことの基本的な内容は理解している児童が多いです。今回の調査での問題にあるように、実際の学習場面では、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」との関連があります。たとえば、聞き手を意識して話す前に原稿にま

とめたり、インタビューや友だちの発表を聞いてわかったことを文章に整理したりするなどの学習があります。そういった学習に丁寧に取り組むとともに、自分の感想と、他者から得た情報とを区別し、整理することが必要であることが今回の調査で明らかになったので、今後の指導に生かしていきます。

【書くこと】

・自由に自分の感想を述べたり、一定量の文章にまとめたりすることはできますが、資料から引用してまとめたり、条件に沿った文章を書いたりすることが課題です。相手や目的を意識した文章づくりを指導していきます。また、複数の条件を満たした文章を書く学習も取り入れていきます。

・書くことに抵抗を感じている児童がいます。書く経験を積み、抵抗感を減らせるように指導していきます。

【読むこと】

・読み取った内容を選択式で答えることはほとんどの児童ができていますが、記述式問題になると投げ出してしまう児童がいます。読み取った内容について、１・２文でよいから文章でまとめる経験を積み、自信をもって記述に向かえるように指導していきます。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・同音異義語など漢字の誤用が多いものについては、理解を深めるとともに、国語辞典を活用するなどして、各々の意味の違いについて学習する必要があります。そのうえで、「どっちの漢字かな」と思ったら国語辞典を引く習慣を身につけさせ、語彙を豊かにしていきたいと考えています。

・国語全般に関わることですが、記述式問題になるととたんに書けなくなる傾向があり、作文指導に力を入れていきます。

算　数

≪概要≫

・正答率は全国値を上回っている。

・正答数分布は、１０問（１４問中）を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、９問以上の正解者が８割以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

＜数と計算＞
・正答率は全国値を上回っている。
・グラフを読みとったり、計算したり、式の意味を答えたりすることはできている。
・示された計算の仕方を解釈し、わり算に関して成り立つ性質を記述する問題では、全国値を上回っているものの正答率が低く、課題である。
・「わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけてもわっても商（答え）が変わらない」という性質があるが、それを説明するには、「かける」「わる」「商が変わらない」の３つのキーワードが不可欠で、どれか一つが欠けた説明であったために不正解となったものが多数いる。
・たし算・かけ算などの混合した計算では、計算の順序を正しく処理できていない児童が一定数いる。

＜量と測定＞
・正答率は全国値を上回っている。
・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題では、全国値を上回っているものの正答率が低く、課題である。

＜図形＞
・正答率は全国値を上回っている。
・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題では、正答率は全国値を上回っている。
・頭の中で図形をずらしたり回したりする問題では、正解に至らない児童が一定数いる。

＜数量関係＞
・正答率は全国値を上回っている。
・棒グラフから読み取って書くことや、計算された答えの持つ意味理解、伴って変わる二つの数量を見いだすことについて、正答率は全国値を上回っている。
・単位量当たりの大きさをもとに求め方と答えを記述し、その結果から判断することができている。
・＜量と測定＞とも関連するが、判断理由を記述式で説明することが課題である。

★算数科における成果と今後の指導改善点について

【数と計算】
・わり算の問題では、わり算の性質自体は理解しているし、普段の算数で使っている性質であるのですが、筋道立てて大事な言葉を落とさずに文章で記述するには、自分の考えを文章で最後まできちんと話したり書いたりする場面を授業に取り入れていく必要があり、今後の指導に生かしていきます。

・調査の問題にあるように、他者の考え方を理解し、それに基づいて思考する力が求められています。自分の解法だけでなく、友だちの解法を説明する場面を授業にも取り入れていきます。
・計算問題では、中学校ではより長い式を解くことになり、小学校段階で計算の順序について習熟していく必要があり、今後の指導に生かしていきます。

【量と測定】
・問題に沿って説明するためには、３文程度のまとまった文章を書かなければなりません。そのような量の記述の経験を積み重ねていきます。
・複数のグラフから何が言えて、何が言えないのかを多面的に読み取る経験が必要で、そのような学習を大切にしていきます。

【図形】
・図形の基本的な内容は理解している児童が多いです。
・実際に手を使って図形を動かすなかで試行しながら学ぶ時間を十分に確保していきます。その経験をもとにして、頭の中でも図形を動かせるような学習を大切にしていきます。

【数量関係】
・正答率の低い問題では、「市全体の水の使用量」「市の人口」「１人あたりの水の使用量」の３つの数値の関係が、十分に把握できていないことがうかがえます。３つの数値を１つの式にまとめるだけでなく、その式から何が言えるのかを多面的に捉える必要があります。
・問題では「１人あたりの水の使用量」が増えているのか減っているのかに注目しているのに、「市全体の水の使用量」に言及しただけで説明を終えているものが目立ちました。何が問われていて、そのためには何を言わなければならないのかを考える学習機会を増やします。
・一人の考えをもとに他の児童がより深く発展させるなど、授業の中で筋道立てて考える機会を大切にしていきます。

２．生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析

■は課題 □は良好

＜基本的生活習慣等＞

□「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」に対して、肯定的な回答が多い。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

「早寝早起き朝ごはん」に関しては、ご家庭での働きかけもあり規則正しい生活を送っているようです。また、ご家庭で子どもと話す時間をもっておられることがうかがえます。

＜挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等＞

■「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対して、肯定的な回答が多いものの、全国値と比較すると少ない。

□「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答が多く、全国値とほぼ同じである。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

進んで人と関わろうとしたり、自分も他者も大切にしたりすることについて課題があり、特にいじめを許さない気持ちを高めていきたいと考えています。また、友だちと助け合ったり協力したりする体験を積ませ、できたときに褒めることを重視します。

さらに、「自分には、よいところがあると思いますか」に否定的な回答が１６．８％あり、それは全国値より低いとはいえ、授業や生活の場面で児童ひとりひとりの良さを認め、広めることが求められていると捉えています。

＜学習習慣等＞

□家庭学習を２時間以上している児童は、全国値を上回っている。

■家庭学習を「全くしていない」児童が一定数いる。

□「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答が多く、全国値を上回っている。

■「新聞を読んでいますか」に対して、「ほとんど、または、全く読まない」との回答が多く、全体として新聞を読んでいる児童が少ない。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

家庭での学習習慣が身についている児童が多いです。その一方で、「全くしていない」児童に対し、個別に家庭学習の仕方を助言し、習慣化する必要があります。

読書で得られる知識や感性を豊かにし、自ら学びを深めるような働きかけを学校でも家庭でも行っていく必要があります。また、全国的にも新聞を読んでいる児童は減少傾向にあり、新聞でなくてもいいので、ニュースに触れ社会に関心を持てるようにしていく必要があります。

＜地域や社会に関わる活動の状況等＞

■「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して肯定的な回答が少ない。

■「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」に対して肯定的な回答が少ない。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

　地域でさまざまな行事が行われているが、参加している児童が限られていることがうかがえます。今後、地域行事の紹介や参加呼びかけを行っていきます。

　また、ある程度見通しが持てないと一歩踏み出せない傾向があり、外国語科などを通して、日本の特徴や良さを知り、自分たちのことを知ってほしいという思いを高めていきたいと考えています。

＜ＩＣＴを活用した学習状況＞

■５年生までの授業で、週１回以上コンピュータなどのＩＣＴを使用した、との回答が、全国値と比較すると少ない。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

　ＩＣＴは今後重要であると児童も感じており、「授業でもっとコンピュータなどのＩＣＴを活用したい」と肯定的に思っている児童が８５．７％もいます。授業内容に照らして効果が期待できる場合に、より多くの使用機会をつくっていく必要があると考えています。

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

■「あなたの学校では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」に対して、肯定的な回答をしている児童が６４．９％いるものの全国値と比較すると少ない。

■「学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」に対して、肯定的な回答をしている児童が６５．６％いるものの全国値と比較すると少ない。

□「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」に対して、肯定的な回答が多い。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

　学級での話し合いでは、自分の思いはあってもそれが発言に結びついていない児童がいることがうかがえ、全体の場で発言する機会をつくるとともに、ひとりひとりの意見がしっかりと聞いてもらえる学級づくりに努めます。

　また、昨年度から始まった「特別の教科　道徳」の授業の進め方に児童が慣れ、自分の考えを友だちと交流することができています。

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）＞

★傾向と課題・今後の改善のポイント

全体として、国語の学習が好きで、学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思っている児童が多いです。また、普段の生活の中で、国語を活用しようとしている傾向があります。この傾向を生かし、とくに書く力を高められるよう、授業研究を進めていきます。

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数）＞

■「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対して、肯定的な回答をしている児童が６８．２％いるものの全国値と比較すると少ない。

■「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」に対して、肯定的な回答をしている児童が７６．６％いるものの全国値と比較すると少ない。

□「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」に対して、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」児童が８７．０％もおり、全国値を上回っている。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

全体として本校の児童は、算数の授業をよく理解し、学習したことを使って問題を解こうとし、粘り強く取り組むことができます。そのいっぽうで、自分で工夫したり活用したりすることについて、学習の理解度が高い割には積極的に取り組めていないことがうかがえます。授業の中で、児童がより深く考え、思考する機会を増やすよう努めます。

３．今後の学力向上の取り組み

記述力の向上については、以前より、また全国的にも重要な課題となっており、授業や生活のなかで取り組まなければならないことをあらためて確認しました。感想を述べたり、日記に出来事を書いたりすることは興味を持って取り組める半面、ある程度まとまった量の文章を、筋道立てて書いたり、型に沿って書いたり、引用して書いたりすることについて課題があります。国語・算数だけでなく他の学習においても、そのような書く学習を大切にしていきます。

そのいっぽうで、昨年度から教科化された道徳の授業に一定の評価が得られたのは喜ばしいことであり、上記の課題に対しても、一朝一夕に改善されうるものではありませんが、日々の実践を積み重ねていきたいと考えています。

質問紙調査から見えてきたさまざまな課題解決に向けては、ご家庭と学校との連携が大切です。今後とも保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。